



# 飯能ロータリークラブ会報



唐竹晩秋 Karatake in late autumn

© photo by Isao Yoshida

## ロータリー：変化をもたらす

RI会長 イアンH.S.ライズリー

2570地区ガバナー 細井保雄

第3グループ  
ガバナー補佐 木川一男

### 「RI戦略計画を皆で一緒に実行しよう!!」

#### 第2776例会 2017. 11. 1

——ロータリー財団月間——

天候 晴 (NO. 54-18)

会長 和泉由起夫 幹事 土屋良一

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 吉田(武)君、山川君

例会場：ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎(042)975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局：飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎(042)974-3111(代) FAX(042)973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 和泉会長
- ・ソング 君が代 奉仕の理想
- ・四つのテスト斉唱 矢島(巖)職業奉仕委員長
- ・卓話 茂木 聡様

#### 【会長報告】

10/29 駿河台大学で日本語スピーチコンテスト(飯能RC協賛)。22人の留学生、学外から6名が参加し、高レベルでした。

「ロータリーボイス」より。今、RIはブランディングを実施中。第1回「なぜブランディングなのか」(知名度を上げよう)。第2回「ブランド構築のためのビジュアルの活用」。第3回(10/31)はRCの「ボイス」:「賢明さ」「思いやり」「粘り強さ」「行動を促す力」。RCの特性を表す4つの「ブランドボイス」をロータリアンとしてしっかり受け止めて進みたい。

25万ドル(2500万円)以上の高額寄付者はRI本部「アーチ・クランフ・ソサエティ・ギャラリー」に肖像画が飾られます。日本人は現在33名。今年2800万円の寄付をされた細井ガバナーが2570地区から初めて1名入られました。

#### 【幹事報告】

第6回理事会: 10/20 第3G第2回会長幹事会の報告。前回議事録確認。12月のプログラム、Xマス例会に結婚・誕生日祝を行う事で承認。年次総会の進行、クラブ協議会の確認。Xマス「一夜限りのロータリーバンド」次週詳細配付。18・19親睦旅行下見。「はんのう生活祭」15名出席予定。PRチラシ配付、各委員会1万円程度の費用負担をお願いしたい。次年度青少年交換留学生は受け入れしない方向。「歳末たすけあい」社協へ前年同様10万円を支出、承認。11月ロータリーレート: 1ドル=114円。シダックス利用パスポート10枚有り。

#### 【出席報告】 MU、無届欠席0 細田(吉)出席向上委員

会員数		当日		前々回修正 出席率
全数	対象	出席数	出席率	
57名	6名	51名	89.47%	85.96%

#### 【SAA報告】

◎ニコニコBOX

・飯能RCの皆様こんにちは。本日卓話をさせて頂きます。拙い卓話ですが少しでもR財団に興味をもって頂ければ幸いです。

R財団部門委員長: 茂木 聡様

・茂木さん、お忙しい中、卓話有難うございます。 R財団委員長: 吉田(武)君

・10/25(水)楽しい夜間例会有難うございました。 大木君

・誕生日お祝い有難うございます。 藤原君

・昨日、中央商事協力会さんのゴルフコンペで準優勝致しました。田辺さん大変お世話になりました。 矢島(高)君

・高2砲丸娘、本日発売の「スタンダードネクスト」11月号に載りました。 大野(康)君

・早退 矢島(高)君

本日計15,000円、累計額346,001円。

◎8日例会当番は吉島、矢島(高)会員です。

#### 【卓話】

講師紹介 吉田(武) R財団委員長

2000年、本庄RCに入会。11~14年、RI第2570地区R財団部門補助金奨学委員長。

15年、地区幹事。昨年度、R財団部門補助金委員長。本年度より部門委員長。現在、(有)茂木聡建築設計事務所 代表取締役。

# ロータリー財団 「世界でよいこと」を続けていくために

2017-18年度 RI 第2570地区 もてぎ さとし  
ロータリー財団部門委員長 **茂木 聡様**

地区内35クラブ程訪問しましたが、初めて英語版の四つのテストを聞かせて頂きました。日頃からR財団にご理解ご協力を賜り、御礼申し上げます。和泉会長が2週連続して財団のポリオ等について話されておりますが、頂いた時間ですので私も少しお話させて頂きたい。

1917年、アトランタの年次大会でRI会長アーチ・クランプが「世界でよいことをするために」基金の創設を提案。これが「ロータリー財団」の始まりです。2017年、同じくアトランタで開催された国際大会。私も4日間滞在しましたが、R財団100周年を祝う、思い出多い大会でした。2017-18年度はR財団の第2世紀の始まりです。

財団の「使命」：ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済する事を通じて、世界理解、親善、平和を達成出来るようにする事。

財団の「標語」：世界でよいことをしよう。

2015-16年度、財団への寄付総額は2億6600万ドル。内訳：年次基金1億2100万ドル、ポリオプラス基金(ビル&メリンダ・ゲイツ財団7000万ドルを足して)9700万ドル、恒久基金1700万ドル、その他3100万ドル。財団支出(2億7100万ドル)の91%、約2億4600万ドルが財団の使命を支えるプログラムと補助金に使用されます。内訳：ポリオプラス1億1500万ドル、補助金9600万ドル、その他3500万ドル。

「財団に寄付する」という事はエバンストンのRI本部にお金を送るという事ではありません。世界からポリオ患者が居なくなり、子ども達が健やかに成長し、教育を受けられ、家庭が十分な食べ物を得られるように支援する事です。財団は昨年度、AFPより「卓越した財団賞」を受賞しました。

財団「管理委員会」からの日本の寄付目標は、本年度、PETS等で発表した通り、1人当たり210ドル以上(年次基金150ドル以上、ポリオプラス30ドル以上、恒久基金30ドル以上)のお願いをしているところです。

財団は「難しい」「横文字が多い」と言われますが、財団のプログラムはたった3つしかありません。「ポリオプラス」「ロータリー平和フェロウシップ」「補助金」です。

1985年に「ポリオプラス」のプログラムを開始して以来、ポリオ撲滅はRCの最優先項目。当初125か国35万件以上あった症例が、その後、25億人以上の子どもに予防接種を行い、発症数は99.9%減少。野生株によるポリオ症例数も2015年「74件」から、今年10/25現在、ポリオ「常在国」のバキスタン5、アフガニスタン7、ナイジェリア0の計「12件」に減少しました。「3か国だけなのになぜそんなにお金が必要なのか」それはリスクがあるからです。完全に撲滅しない限り、今後10年間に新たな発症は20万件と推定。発症が起きている国で感染を断ち切ると同時に「ポリオフリー」となった国にウイルスが再流入しないようにする必要があります。リスクの高い国々への予防接種キャンペーン、発症者の特定、ウイルス検知等の人件費に資金のほとんどが使われています。

「ロータリー平和フェロウシップ」は平和および紛争解決の分野におけるリーダーを育成・支援するための奨学金プログラム。奨学金の下限は5万ドル。2年間「ロータリー平和センター」で修士課程を学びます。当地区ただ一人の「平和フェロー」金子由佳さん(スポンサー：熊谷東RC)は元JVC職員としてガザ地区の子どもの栄養改善プロジェクトに取り組みました。平和センター創設から10年余、1000人以上の人材を輩出し、その多くは国連機関やNGOで平和を築くために活躍しています。

「補助金」は「地区補助金」「グローバル補助金」の2つ。「地区補助金」は、クラブや地区の奉仕活動で、財団の使命に沿い、授与と受諾の条件に従って、ロータリアンが



直接参加するもの、「補助金管理セミナー」出席が必要。

「グローバル補助金」は、6つの重点分野に該当するプロジェクト/奨学生支援、350万円以上の規模、成果の持続可能性と測定可能性、海外との共同申請(日本が援助国側、海外が実施国側)、授与と受諾の条件に従う、「補助金管理セミナー」出席、「クラブの覚書」の提出が必要。

このシステムになってから「グローバル補助金」のプロジェクトは5年間で1件(※)だけです。

皆様からの寄付が3年後、自らの意志の下に使える事を示した寄付・補助金サイクル図です。TRF(R財団)からWF(国際財団活動資金)とDDF(地区財団活動資金)に半分ずつ。DDFの半分を「地区補助金」として利用出来ます。本年度、68,400ドルが奨学生2名、27クラブに利用されていますが、もう半分は「グローバル補助金」としてしか利用出来ないため、現金1に対しWFから0.5の上乗せを合わせた136,800ドルが利用されないままとなっています。

当地区で唯一の「グローバル補助金」プロジェクト(※)の活動名は「Programs in Burkina Faso」。目的：ブルキナファソ国ウブリテンガ県における成人への識字教育と職業訓練プログラムを行い地域社会の発展を図る。2016年3月15日～12月16日に実施。予算額46,957ドル。識字率は28.7%、女性に限れば20%以下。援助国側は第2570地区、実施国側は第1101地区ワゴダウグ・エリートRCが担い、現地NGO「AIR」に手伝って頂いた。財団のグローバル補助金奨学生として2年間、ジュネーブ国際高等開発研究大学院修士課程で学んでいた角田志貴保さんが、休みを利用してブルキナファソでUNHCRのインターンをしていた関係で、彼女にプログラム・コーディネーターをお願いしました。現在は「AAR Japan」に所属、ウガンダで南スーダンの緊急難民支援の活動をされています。

※の活動は3つ。1) 識字教育指導者再教育プログラム：識字教育経験者25人の女性に対し14日間、指導方法確認のための講習を行う。2) 成人に対する識字教育プログラム：15～45歳、主に女性約750人に90日間、屋外にて指導。モレ語の読み書き。ディスカッション授業に病気・衛生教育を取り入れ環境改善を同時に目指した。識字教育は村が豊かにならないと継続出来ないのです。3) 成人に対する職業訓練プログラム：15～45歳の450人(1村当たり30人、15村)。村のニーズに合わせて実施したので、豆、玉ねぎ、羊、養鶏、せっけん、伝統的染色、機織りと、7種にもなりました。シアの木が自生する地域ではシアバター100%のソフトボール大のせっけんを作り、村まで自転車で2時間かけて売りに行きます。これが貴重な現金収入となります。染色は、赤土の上に白い布を広げ、バケツの染料を手でかけて絞り込み、色柄を付ける。この地域は遠くない場所に浅い井戸があったので、このような事をやっておりました。

「世界でよいこと」をしてきた一世紀に誇りをもち、これからの一世紀に向けて行動して下さい。よろしくお願ひ致します。

## 平成29年12月のプログラム (月間テーマ 疾病予防と治療月間)

月日	例会数	行事予定	当番 [担当委員会]
12. 6	2,781	年次総会	馬場君 藤原君 [会長・幹事]
12.13	2,782	クラブ協議会	福島君 細田(伴)君 [会長・幹事]
12.20	2,783	クリスマス例会	橋本君 平沼君 [親睦活動]
12.27	2,784	例会取消(特例による休会)	